

線形代数及び演習 II 演習プリント No.6 (2019.11.11)

- 3次正方行列 A の左から Q を乗じると、行列 A の第2行と第3行が交換されるような正則行列 Q を答えなさい。
- 3次正方行列 A の左から Q を乗じると、行列 A の第3行が $c(\neq 0)$ 倍される正則行列 Q を答えなさい。
- 3次正方行列 A の左から Q を乗じると、行列 A の第3行に第2行を c 倍したものが加えられるように正則行列 Q を決めなさい。
- ベクトル空間 V について $\dim(V) = n$ とする。 V の n 個のベクトル $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \dots, \mathbf{v}_n$ について次の3条件は同値であることを証明しなさい。
 - $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \dots, \mathbf{v}_n$ は V の基である。
 - $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \dots, \mathbf{v}_n$ は1次独立である。
 - $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \dots, \mathbf{v}_n$ は V を生成する。
- $V = \mathbf{R}[x]_2$ (実数を係数とする高々2次以下の多項式全体) の次のベクトルは V の基であることを示しなさい。

$$f_1(x) = 2 - x + x^2, \quad f_2(x) = x^2, \quad f_3(x) = 3 - 6x + 2x^2$$

- 次のベクトル空間の次元と基(底)を求めなさい。

$$(1) W = \left\{ \mathbf{x} \in \mathbb{R}^5 : \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & -1 & 1 & 0 & 2 \\ 2 & 1 & 2 & -1 & 5 \end{pmatrix} \mathbf{x} = \mathbf{0} \right\}$$

$$(2) W = \left\{ \mathbf{x} \in \mathbb{R}^5 : \begin{pmatrix} 3 & 2 & 2 & 4 & -1 \\ 1 & 2 & 3 & 1 & -5 \\ 1 & 1 & 5 & -10 & 6 \end{pmatrix} \mathbf{x} = \mathbf{0} \right\}$$

$$(3) W = \left\{ \mathbf{x} \in \mathbb{R}^4 : \begin{cases} 4x_1 + 2x_2 + x_3 = 0, \\ x_1 - x_2 + 4x_3 - 3x_4 = 0 \end{cases} \right\}$$

7. 次のベクトルに対して以下の問いに答えなさい。

- 1) 1次独立なベクトルの最大個数 r を答えなさい。
- 2) \mathbf{a}_1 を他の1次独立なベクトルの1次結合で表しなさい。

$$\mathbf{a}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ -2 \\ 1 \end{pmatrix}, \mathbf{a}_2 = \begin{pmatrix} 4 \\ -1 \\ -5 \\ 1 \end{pmatrix}, \mathbf{a}_3 = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ -1 \\ -1 \end{pmatrix}, \mathbf{a}_4 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \\ 2 \end{pmatrix}, \mathbf{a}_5 = \begin{pmatrix} 3 \\ 0 \\ -3 \\ 0 \end{pmatrix}$$

8. $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$ がベクトル空間の基で $(\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \dots, \mathbf{v}_n) = (\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n)A$ のとき, $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \dots, \mathbf{v}_n$ が V の基になる必要十分条件は A が正則であることを示しなさい。

9. 次のベクトル $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3, \mathbf{v}_4$ を行列を用いて $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \mathbf{u}_3, \mathbf{u}_4$ の1次結合で表しなさい。また, $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \mathbf{u}_3, \mathbf{u}_4$ が1次独立なとき, $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3, \mathbf{v}_4$ が1次独立か1次従属か調べなさい。(前問の結果を使ってよい。)

$$\begin{aligned} \mathbf{v}_1 &= \mathbf{u}_1 + \mathbf{u}_2 + \mathbf{u}_3, & \mathbf{v}_2 &= 2\mathbf{u}_1 + 3\mathbf{u}_2 - 3\mathbf{u}_3 - \mathbf{u}_4, \\ \mathbf{v}_3 &= 2\mathbf{u}_1 - 2\mathbf{u}_2 + \mathbf{u}_3 + 2\mathbf{u}_4, & \mathbf{v}_4 &= -\mathbf{u}_1 + \mathbf{u}_3 + 2\mathbf{u}_4 \end{aligned}$$